

今週のメニュー

■トピックス

◇エコプロダクツ東北 2012 に出展

■随想

◇新和環境株式会社の塩ビ壁紙リサイクル事業

第3回 アールインバーサテック株式会社からの塩ビ壁紙事業引継ぎ

新和環境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介

(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

■編集後記

■トピックス

◇エコプロダクツ東北 2012 に出展

10月19日(金)～21日(日)の3日間、仙台の「夢メッセみやぎ」にて、エコプロダクツ東北2012が開催されました。

本展示会は、NPO法人・環境会議所東北が、環境ビジネスの促進活動として毎年開催していましたが、昨年は震災により中止となりました。本年度は、震災以後この地域での「環境問題」に関する興味が高まる中、エコについて楽しく学び、考えるということで“届けよう！未来への贈り物”をテーマに、東北地区の「再生と復興(幸)」を祈念して開催されました。会場となった「夢メッセみやぎ」は、震災当時、B級グルメイベントが行われており(隣のビル屋上に全員避難された)、津波は7mの高さまで来たとのことでした。仙台塩釜港における復興のシンボルとして早期復旧をはかり、今年の7月施設再開にこぎつけられたとのことでした。



2012年7月



2011年3月12日

こうした背景の中、西は長崎(7社)から北海道(10社2大学)まで全国から、計117社・団体が出展し、盛況な展示会となりました。入場者は、初日こそ6,350人でしたが、2,3日目はそれぞれ10,326人、10,640人となり3日間で27,316人、これは震災前の2010年開催時が3日間で10,290人とのことですから2倍を大きく超えることとなりました。

VEC/JPEC は、共同で出展し 1 小間ではありましたが、「塩ビは、環境特性に優れたエコな素材です！」を訴えてきました。本展示会では、グリーン購入全国フォーラム 2012 や第 14 回グリーン購入大賞表彰式も展示会場ステージで行われ、GPN 関係者及び出展者でもある宮城県環境政策課、資源循環推進課の皆様にも、塩ビの環境性能をご理解いただけたものと思います。

また、19 日には、環境政策課が主催する「エコキッズ探検隊」の子ども達もブースを訪れ、いろいろなプラスチックの種類とその違いを実験してみせる一色部長の説明に、興味深々の顔で聞き入っていました。この子達が将来、プラスチックの、そして塩ビの良き理解者となっただけの事を期待しています。



VEC/JPEC ブース

本展示会での「復興と PVC」に係わる 2 つの出展についてご紹介します。

一つは、被災した塩ビパイプをリサイクル原料として宮城県グリーン製品認定品として登録された「宮城パイプMグリーン」及び「宮城パイプMyスーパー」です。この 10 月より販売開始とのことでした。詳細は、[塩ビリサイクル排水管協会HP](#)をご参照ください。



リサイクル塩ビパイプ展示

もう一つは、だいぶ以前になりますがPVCニュースでも紹介した塩ビ製の鳥居です。出展されている(有)中島ビニール加工の中島社長によれば、東日本大震災後の全国規模の余震で中部、関東地区で注文がひっぱりだこのことでした。東北地区では 1 年半経ち、やっと鳥居に手がまわる状況となったようです。開催期間中も、展示場から近隣の工事に向かわれていました。こちらも[詳細はHP](#)をご参照ください。



塩ビ製の鳥居展示

当ブースには、「塩ビはいいものなんだからもっと頑張ってください」と激励される塩ビ業者様、また逆に「塩ビは悪いものじゃなかったかしら」と疑問を投げかける方々が少なからずおられました。まだまだ塩ビの環境性能を啓蒙し続ける必要があるなど感じています。現在、12 月 13,14,15 日に開催されるエコプロダクツ 2012 (東京ビックサイト) の出展企画準備中です。塩ビの良さをよりわかりやすく展示したいと考えております。是非こちらにも足を向けていただけますようお願いいたします。

■ 随想

◇新和环境株式会社の塩ビ壁紙リサイクル事業

新和环境株式会社 代表取締役社長 近藤 亮介
(一般社団法人日本壁装協会 環境顧問)

第3回 アールインバーサテック株式会社からの塩ビ壁紙事業引継ぎ

6 「鬼門」の塩ビ壁紙のマテリアルリサイクル

過去に、いくつかの会社が、塩ビ壁紙のリサイクル事業に乗り出したが、その多くは、事業を撤退してしまっている。

これには、しかるべき理由がある。一つは、「樹脂層とパルプ層とを分離する技術」の開発には、多くのコストと時間と労力が必要であること。二つ目は、分離した「樹脂コンパウンド」の塩ビ組成率は、50%程度であり、残りの半分は、付加価値の低い「炭酸カルシウム」であるため、それがあまり高く売れないこと。三つ目は、工事現場で、異物を混入させずに「廃塩ビ壁紙」だけを分別排出することが容易ではないこと。四つ目は、工事現場から、少量ずつの廃壁紙を、リサイクル先に搬出する物流システムがないこと。つまり、どんなにすばらしい「分離技術」があっても、投資に見合うだけの収益が上がらないのである。

アールインバーサテック(株)の事業撤退、自己破産により、塩ビ壁紙のマテリアルリサイクルの可能性が潰れてしまうことは、壁紙業界にとっても不幸なことであるため、日本壁装協会のリサイクル委員会でも議論し、協会から本件事業推進に向けて協力が得られることになったので、私が経営している建設廃棄物処理業者、すなわち、新和环境にて本件事業を引き継ぐこととなった。

「鬼門」の事業で、かつ、前事業者を自己破産に追い込んだ事業ということもあり、投資リスクに対する懸念が全くなかったわけではないが、10年以上に渡って、塩ビ壁紙のリサイクルに関わってきた経緯上、新和环境が引き受ける以外に、本件事業を生かす方法はないと考え、決断するに至った。

事業継承にあたり、リース会社、破産管財人、工場建物貸主、明治大学、東京都産技研との権利関係の調整においても、関係者から協力が得られ、スムーズに事業承継することができた。

7 事業承継後の設備改良

本件事業を継承して、改めて痛感したことは、引き継いだ設備は、「パイロットプラントの域を出ていない」ということであった。新和环境では、1995年に建設廃棄物の中間処理業を始めて以来、総額50億円以上の設備投資をしてきたが、そのような経験に基づく視点から見ると、過酷な「リサイクルの現場」の連続運転には耐えられそうもなく、また、機器単体に問題がなくとも、「ユニット」として機能させたときには、それぞれの機



図6)「300トン/月」の処理能力を達成した設備

器が、協調性なく、バラバラに動き出して、暴れ出してしまっていた。

そこで、事業承継後に、機器単体の能力、バランスを再検証し、結果的には、大半の機器類を入れ替えることになり、ここにきて、ようやく、当初の目標としていた「300 トン／月」、「12 トン／日」の分離能力を達成することができた。(図6)

(つづく)

次回は、「第4回 叩解法による塩ビ壁紙からの塩ビ樹脂の分離・回収」です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先日初めて通天閣に行きました。仕事で行く機会は多いのですが大阪らしいところを訪問するのは初めてです。知らなかった発見がたくさんありました。

現在の通天閣は二代目で初代の通天閣の形はすごいです。新世界ルナパーク（遊園地）の中心に建っていて、凱旋門の上にエッフェル塔を組み合わせた形です。当時の模型が展示されてありましたがとても大阪らしく微笑ましく思いました。

ルナパークも人カジェットコースターなど不思議で怖そうなものが沢山あり人気を博したそうです。

身近でなかなか訪れないところにも驚きの歴史があるのだと思いをはせながら、ビリケン足を撫でてきました（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp